

[日時]2021/5/12

[場所]Microsoft Teams

[出欠]出席 61 遅刻 3 早退 3

[議題]令和 3 年度議長団選挙

[資料]

- ・ 21001\_第 1 回本会議議事次第
- ・ 21002\_令和 3 年度議長団選挙に関して
- ・ 参考資料 1\_筑波大学の学生組織等について
- ・ 参考資料 2\_筑波大学における学生組織及びクラス連絡会等について

[会議の流れ] 開会→資料確認→出欠確認→議題→採決→委員会報告→その他諸連絡→散会

-----  
**開会**

**資料確認**

**出欠確認**

**議題**

◇伊藤（議長）

本日の議題は令和 3 年度議長団選挙である。資料 21002 にある通りに選挙を進めていく。議長の選挙が終わった後で副議長の選挙を進めていく。議長が決まるまでは議長選挙を行い、決まってから副議長の選挙に移る。参考資料 1, 2 にあるように議長の定員が一名、副議長の定員が二名で行う。流れは資料 21002 に書いてある通りである。全大会の令和 3 年度議長団の議長立候補者を募り、候補者ごとに演説を行い、その後質疑応答の時間を設ける。質疑応答が終わった後、立候補者が 1 名の場合は 1 名に対する信任投票を承認、否認、保留の 3 つの票で行う。立候補者が 2 名以上の場合は議長一人を決める決選投票を行う。その際は一人一票で投票を行う。決選投票で過半数以上の得票者が議長として選出される。3 名以上で投票を行い、さらに過半数以上の得票者がいない場合は上位 2 名でさらに決選投票を行うことになっている。保留の票が多く投票で決まらない場合は今回の本会議では決まらなかったとして、次週また本会議を開くこととする。この流れで議長が決まったのち、副議長に関しても議長の場合の信任投票、決選投票と同じように進めていく。前年度の副議長及び監査を務めている辻（副議長）が投票フォームの管理をする。指示に従って投票をしてもらいたい。その他の書いてあることについては資料に目を通してもらいたい。

それでは本日の令和 3 年度議長団選挙に関して、及び学長決定副学長決定に従って全代

会の令和3年度議長団選挙をする。本年度の令和3年度全大会の立候補する人は挙手をしてほしい。今年度の全大会議長の立候補は森本ひのき（知識情報・図書館学類）、以上で他に立候補者がいないものと認める。立候補の演説をお願いする。

◆森本（知識）

これから知識情報・図書館学類2年、総務委員会事務部門所属の森本が議長立候補演説を行います。

本日はこのような流れでお話ししたいと思います。

まず自己紹介です。冒頭にも述べましたが、私は知識情報・図書館学類2年、総務委員会事務部門所属の森本ひのきと言います。全大会での活動実績はスライドに書いてある通りです。その他春日クラス代表者会議で活動しています。特に新歓準備期・新歓時期においては、新特の活動、全大会の活動、春日クラ代での新歓活動をそれぞれ並行して行っていました。それぞれの活動で自分ができることに全力で取り組みました。その上で、自分の仕事はきちんとやること、今や今後必要なことを洗い出し必要に応じて行動することを徹底して活動することができたと自負しております。

次に議長に立候補した理由についてお話しします。私が議長に立候補した理由は、全大会の活動を円滑にすることのお手伝いをしたいと考えたためです。このように考えるのには2つの理由があります。一つ目の理由は、今年度は各委員会の委員長がそれぞれ新しいことをする意識を持っているように感じており、それぞれの構想をしっかりと実現できるようなサポートを行いたいと思っているからです。具体的には、先生方との連携、関わる他委員会・組織等との連携、不備点や第三者意見をいう等のアプローチで根回しを行いたいと思っています。2つ目の理由は、私は全大会という組織に所属していることを誇りに思っており、全大会という組織を存続させる担い手の1人になりたいと考えています。そのためには、全大会としての活動をきちんと行えるようなサポートをする必要があると考えています。そのサポートをしたいと思っています。ここまで聞いて、わざわざ議長になる必要があるのか、副議長でも良いのではないかとお考えになる方もいらっしゃるかもしれません。しかし、私には議長に立候補した理由があります。それは私の中の議長像・副議長像を考えたときに、私がやりたいことは議長になる方がより実現できると考えたためです。私の中で、議長とは、それぞれの活動をしっかりと把握し、吟味し、滞りなく進むようにアプローチする人で、副議長とは実務をしっかりと行いながら議長の手助けをする人というイメージがあります。全大会の活動を円滑にすることのお手伝いをしたいという思いには、それぞれの活動をしっかりと把握し、吟味し、足りないところを補うなどの方法で滞りなく活動できるようにアプローチする議長の方が適任であると考えます。そのため、議長に立候補いたします。

次に、私が議長になったときのメリットについてお話しします。私が議長になることのメリットとしては、先を見据えたスケジュール管理ができること、過去資料等を参考に問題提起ができることです。このそれぞれのメリットは、全大会の活動を円滑にすることのサ

ポートをする上でとても有益なものであると考えています。今年度の全代会の活動は、昨年度新型コロナウイルスの影響で行えなかったことや、新型コロナウイルスやその他のことに関わる諸問題を解決していくことになると考えています。特に昨年度新型コロナウイルスの影響で行えなかったことに対して、ここに書いている利点が役に立つと考えております。今年度全代会で活動するほとんどの方々は、例年行われている諸活動について、その雰囲気やスケジュール管理がわからないはずです。各言う私もわかっていない部分が多いです。そのため、過去資料をしっかりと読み込んだり先輩方に話を聞いたりすることで、どのようなことが必要なのか、スケジュールはどのように設定すればいいのかについて対応いたします。もちろん、新型コロナウイルスやその他のことに関わる諸問題を解決していくことについては、議長に就任した際には座長団の皆さん方、生活課の職員の方などと連携をとりながら対応していく所存です。一方で、私が議長になる上で欠点もあります。それは仕事を人に振るのが苦手ということです。活動を円滑に進めるためには、多くの人を巻き込み、一人ひとりの負担を軽減させることも大切であると考えています。そのため、上手に仕事をふる力が必要であると考えます。これを克服するために、・仕事が来た段階で誰に振るか明確にする・ある程度その人を信頼し放任する・コミュニケーションをとって、仕事に対する共通認識をつくることを徹底いたします。

最後に、公約についてお話しします。私は公約として次の三つを挙げます。①効果的なオンライン・対面本会議の併用の仕方を見つけ、次の世代に引き継ぐ②副学長・支援室等の方々と今までと同レベル、さらには今まで以上に強固な関係を築く③全代会働き方改革です。まず、一つ目の公約についてです。昨年度はすべての本会議がオンラインで行われました。今年度については研修会が対面で開催されたように、対面での本会議を実施することができる可能性が高いです。私が議長になった暁には、それぞれの方式の本会議を行い、それぞれの利点欠点を見極めたいと思います。そして、来年度以降、新型コロナウイルスの脅威がなくなった後にも実践できるような、オンライン・対面会議の指針を作りたいと思います。次に二つ目の公約についてです。今年度から新しい副学長が就任されたり、ランチミーティング等で全代会と関わる先生方が増えたりします。また、関係副学長や全代会と関係する先生方と良い関係を築くことは全代会の活動を円滑に進める上では必須のことであると考えています。昨年度の議長団は関係する先生方ととても強い関係を持っておりまし、一昨年度以前の議長団は関係する先生方だけでなく、年に数回関係副学長と懇談するほど強い関係を持っておりまし。そして、新型コロナウイルスやその他の問題にしっかりと対処されていまし。私が議長になった暁には、それらを見習い副学長・支援室等の方々と今までと同レベル、さらには今まで以上に強固な関係を築きたいと考えておりまし。そのために、約束を守ることや誠心誠意を持って先生方と関係を持つことを約束いたします。関係する先生方から信頼を得ることが、強固な関係を築く上で必要になると考えるためです。最後に三つ目の公約についてです。全代会働き方改革と称しまして、以下のことを約束しまし。なぜこのようなことを公言するかというと、メリハリの

ある活動をするのが、円滑な活動につながると考えるためです。まず、日曜日に仕事をしないということについて詳しくお話しします。これは私自身の体験談なのですが、今年度の新歓期の時、私は平日・休日、昼夜問わず、授業時間以外の時間は全代会での活動について考えていました。その結果、十分な休憩ができなかったためか、やる気が低下した日が頻繁に出たり、投げやりな仕事をしそうになることがあったりしました。この経験から必要な休息を取ることが大切だと実感しています。議長というトップが休むと公言することで、議長の承認が必要な仕事は止まるでしょうし、トップが進んで休むことで他のひとも休みやすくなるのではないかと考えます。その結果、メリハリのある活動をするのでできると考えています。次に、ペーパーレス化等の負担削減については、文字通り負担軽減によってメリハリのある活動ができると考えるため、このような方策を立てました。最後に積極的な情報開示についてお話しします。今全代会はどのような問題を解決しようとしているのか、今後どのような行事があるのかについて、できる限り早くそして正確にお伝えしようと考えています。それにより、皆さんが先を見通せるようになってそれぞれがやりやすいように仕事をするのでできたり、皆さんからの意見をより多く聞いて全代会がより良い方向に進んだりすると考えます。そして全代会の活動を円滑に行うことができると考えます。

私が議長になった暁には以上の3つのことを約束いたします。

ご清聴ありがとうございました。

◇伊藤（議長）

森本への質問を受け付ける。

◆三河(総合学域群第二類)

質問が三点ある。一点目に、先ほど言っていた、各委員会の委員長が考えている新しい活動について、具体的な内容が分かっているのであれば教えてほしい。二点目は、これは質問ではなく意見である。先ほどの説明の中で、「今年度はオンラインと対面での活動の長所と短所をそれぞれ探っていきたい」と述べていたが、対面に関しては先輩方に話を伺う、オンラインについては昨年のご自身の経験を参考にするという形で十分では無いか。またもう一年かけて、両者の長所短所について探る必要はないかと思う。三点目に、情報開示の方法について言及があったが、それに関しては現在、広報誌「Campus」を中心に行っている。これに加え、新たな活動を始めることを考えているのか。具体策があるのであれば教えてほしい。

◆森本(知識)

回答する。

一点目の質問に関して、各委員会の新しい取組について、私が把握している限りで回答す

る。例えば、教育委員会の渡辺は、教育フォーラムのようなものを実施したいと聞いており、全大会の国際化についても、精力的に活動をされている。また、生活環境委員会ではアンケートの集計率を上げたいということで、生活環境委員会と調査委員会との連携も含め、そういった活動のサポートをきちんと行いたいと考えている。そのほか、学内行事委員会について、昨年度行えなかったスポーツ・デーや学園祭も、私たちにとっては初めての取組になるので、そういったものも含め、新しい活動をしっかり支えていきたい。私が把握している限りでは以上である。

二点目の質問に関して、対面での実施に関し先輩方から話を伺えばよいとのご指摘があったが、私たち自身、実際に対面での実施を経験していないため、先輩方から話を伺うだけでは不十分であると私は考える。また、オンラインでの実施に関しても、新型コロナウイルス関連の状況の変化もあり、今年度は昨年度とはまた違った環境にあると言える。例えば、昨年度のように、直接会えない環境下でのオンラインでの実施と、今年度のようにある程度対面が許される環境下でのオンラインでの実施は、異なったものになるだろう。そういったことを含め、今年度はオンラインと対面のそれぞれの有用性をもう一度考えていきたいと思う。

三点目の情報開示に関する質問、私が現在想定しているのは、全大会内部での情報開示になる。昨年度私が抱いた印象として、議長団という組織が何をしているのか、他の全大会構成員から見えなかったということがある。そのため今年度は、Teams を使っての情報開示の充実、対面会議における交流を通して連携を強めていきたいと考えている。以上で回答とする。

#### ◆三河（総合二類）

一つ目の質問について、教育環境委員会の新しい活動として全大会の国際化を挙げていたが、わからなかったので詳しく教えて欲しい。また、生活環境委員会について、教育生活環境調査の集計率を上げるというのはこれまでも課題になっていたはずだが、これ以上何をするのかという具体策は挙がらないと思う。そこについて挑戦すると言うだけでなく何をするかを教えて欲しい。次に、学内行事委員会について、スポーツ・デーなどの行事はこれまでも実施していたはずだが、何をもって「はじめてやる」と言っているのか教えて欲しい。

二つ目の質問回答についての意見である。対面での会議を自分たちの世代ではやっていないから不十分だというのがわからない。そもそも 3 年生から話を聞くということ、他のスケジュール管理などの話では、これを根拠として十分だとしているのが矛盾しているように思う。そこについてはどう思うのか。また、今年度は環境が違うということについても、毎年環境は変わるため、毎年同じことをやっていたら繰り返しで何も成長しないと思う。そこについても意見を聞きたい。

三つ目の情報開示について。現状として全代会内で情報開示が出来ていない印象があると言っていたが、一年生で入りたてで資料を読み込めていない部分はあるものの、例えば蒐場さんなどが議事録を作っていると思う。議事録以上の情報開示の方法があるのか。

◆森本（知識）

一つ目の質問について、各委員長がやりたいと言っていることなので、私から詳しく話すのは憚られるが、私が聞いている段階の話についてはここで話したいと思う。まず、国際化について、今全代会として活動している人は日本人としての試験を受けた方だけであり、留学生の意見が反映できていないという問題がある。そのため、留学生を全代会の活動に含めることが出来ないのかということについて考えていくということである。次に、生活環境委員会のアンケート調査の集計率向上について、昨年度は特に大学構内に来られなかったこともあるかもしれないが、アンケート自体が広く知れ渡らなかった問題がある。そのため、ポスターを作って学校に張り出すなどといった周知の方法を生活環境委員会委員長や委員の方々と話しながら対応したいと思っている。次に学内行事委員会について、私たち自身が行事を行っていないため、私の印象としては新たな問題に対応するような形であると考えている。また、新型コロナウイルスの状況もあるので、その兼ね合いも考えながら進めていくことも考えると、新しくやる要素が多くなると考えている。

二つ目の質問について。スケジュールなどについては話を聞くことが有効であると考えている。しかし、対面・オンライン会議の指針については、実際にやった上で私たちはこのように考えたという段階を踏んで指針を出すことが有効であると考えている。毎年環境が異なるという話について、昨年度全く学校にも来られなかった状態で行った本会議が多かった一方、今年度は委員会等で出会う人も増えている。そのような違いが今年度と昨年度ではあると考えている。また、今年度以降はまったく人と会わずに本会議をするということはないと信じているので、その比較が出来ればと考えている。

三つ目の質問について。Teams においてメンションをすることで通知が来るようにしたり、長文を書かず簡潔な言葉で説明したりするという心を心がけていくことで情報開示にしたい。

◆三河（総合二類）

これまでの全代会の活動についての疑問である。まず一つ目の新しい活動となっている生活教育環境アンケートについて広報するということについて、ポスターの作成は逆にこれまでやってこなかったのか。

二つ目について、前出しの指針を出すのは大変良いと思うが、そこに時間を割くべきだろうか。毎年環境が変わるといえるのは、オンラインかどうかという問題でなく、そもそも人間関係の問題である。毎年環境が変わるのに、それに対して指針を出す、すなわち時間を割く

のはどうなのか。そこに時間を割くべきなら、全代会自体のポスターの作成等により時間を割くべきではないのか。

情報開示の手段についても、同様だが、例えばメンションを飛ばすということも、いま現状で行っている。それでも問題ならば、それ以上の何かが必要だと思うが、そこについては何か考えがあるか。以上三点である。

◇伊藤（議長）

会議の時間は限られているため、三河が最終的に質問することがあれば今のうちに全部質問するように。それで森本の回答に追加質問がなければそのまま会議を進める。追加質問がある場合には質問してほしい。今質問した三点のところを立候補者の森本の方に聞くというかたちで大丈夫か。

◆三河（総合二類）

大丈夫だ。

◇伊藤（議長）

森本の方も答えられる範囲で自分が考えていること、思っていることを簡潔に述べるように。

◆森本（知識）

簡潔に述べる。一つ目の質問について、ポスターはやっていたという話は聞いている。ただしここは立候補演説であるから、具体的な案については省略する。二つ目の指針を作るのに時間をかけるのはあまり賛成ではないという話だが、私は指針を作ること、その指針を積み上げていくことがとても大切であると考えているから、ぜひ時間をかけて指針を作っていきたいと思う。三つ目の質問、議事録、メンションを飛ばしている以外で何かしているのか、何か考えがあるのかということについても、今すぐに出る答えはないが、一年間活動を通して何か見つけていけたら良いと思う。以上である。

◆國分（工学システム学類）

三河の質問についての補足をする。ポスターの件について、昨年度は大学のキャンパス内に来る人が少なく、ポスターを更新する労力とアンケート回答率の上昇の効果が結びつかないと考えており、そこに特段力を入れて活動をしていなかった。今年度については昨年度と状況も変わり、学生がキャンパス内に来ることが多くなったので、古いポスターの回収と新しいポスターの作成をしていきたいと考えている。教育生活環境調査について、Teamsで新しいチームを作って、委員会のリンクを掲載し、学生がアンケートにアクセスできるようにするといったことを考えている。なぜこのようなことを考えているかということ、教育生活

環境調査については学内からのみの回答にすることが重要であると考えているため、リンクを公にしすぎることなく、アンケートを広く周知できるように改善したいと考えているためである。

◆三好（日本語・日本文化学類）

質問が二点ある。どちらも情報開示についてである。一点目は先ほど三河の質問の際に森本は情報開示について具体策、議長団が何をしているかわかりにくいということについて teams を使って情報開示をしていくという風に言っていたが、昨年度は情報漏洩を危惧した秘匿主義の印象を受けた。情報開示のラインというのはどのあたりで考えているのか。

二点目は先ほど生活環境委員会の委員長の國分が三河の質問に対して補足をされていたように全代体の役職者でない構成員に対して情報共有は難しくなっていると思う。また私も本当に情報が下りてこないと考えている。先ほどの teams の新しいチームを作ってそこで教育生活環境調査を流そうという話も、委員長より上の役職者の方が話されていたものが後から委員の方に降りてきてくるので委員からも意見を出させてほしい。先ほど森本さんは今年度の議長になった際には委員長をサポートしていくという方針でいると言っていたので議長のカバーする業務範囲が大変広く、平の委員も含めて末端まで目をかけるのは難しいと思う。副議長に実務を任せるという風に言っていたので、その分業についてのビジョンをさらに細かく教えてほしい。

◆森本（知識）

まず一つ目、情報の開示をするラインをどうするかという話について、ケースバイケースではある。どうしても全代会の構成員の方々全員に見せてはいけない情報があるかもしれない。それについてはやはり議長団だけであることになるかもしれないが、基本的にほとんどの情報を皆さんに伝えたいと考えている。これは新歓の活動を通しての反省なのだが、私が自分一人に情報を溜めてしまう傾向があった。それをなくすためにも積極的な情報共有をしていきたいと考えている。

二つ目の分業のビジョンを少し詳しく教えてほしいということ。私がいま思い描いているビジョンとしてはそれぞれの活動について、委員長の方々や副議長の方々がそれぞれ皆さんはどのような活動をしているのか把握し、解釈したうえで私に伝えてもらうことで今全代会がどのような活動をここでしているかを把握していきたいと思う。把握した状態で新たな問題が降ってきたときにきちんと適切な人材に仕事を振るということをビジョンとして描いている。

◆三好（日日）



二つ目の分業のビジョンについて副議長が細かい末端の情報を集めたうえで議長に報告しそこで議長が仕事を振っていくということでよいか。

◆森本（知識）

末端から集めるということに関しては副議長だけでなく委員長の方にも積極的をお願いをしていきたいと思っている。

## 採決

◇伊藤（議長）

信任投票を行う。

信任 52 不信任 0 保留 3

信任が過半数を超えているため、立候補した森本を令和3年度全代会議長に選出する。

## 議題

◇伊藤（議長）

副議長選挙に移る。議長に選出された森本は副議長選挙が終わった後で一言述べる準備をお願いします。それでは資料21001、及び参考資料1、2に従って副議長選挙を行う。立候補する人はTeamsの挙手機能を使って立候補してほしい。立候補は佐藤翔哉（物理学類）、菟場広翔（知識）の2名とする。立候補者は2名である。立候補者ごとに演説を行い、そのあと質疑応答をする。佐藤から立候補演説し、菟場から演説をする。その後二人に対しての質疑応答を受け付けて、投票をしたい。それでは立候補演説をお願いします。

◆佐藤（物理）

副議長演説を始めさせていただきたいと思います。まず、まあ立候補者の人となりと言いますか、どんな人なのか分かっていない上で投票するのは難しいと思いますし、私の一年間の活動経験から今回立候補に至った経緯となっておりますので、簡単ですが、私の自己紹介をさせていただきます。

さとうしょうやと言います。所属は理工学群物理学類です。基本的に物理学を学んでいます。現状ではプラズマ・核融合に興味があり、そのような方向で進路を決めていけたらと考えています。全代会では、昨年度より座長として参加し、現在広報委員会で広報委員長を務めさせていただいております。広報委員会では編集部として主に『Campus』の取材・執筆をしています。また、紫峰会業務推進室の方に全代会の立場として学生広報会議に参加し、『紫峰の風』作成にも携わっております。ささやかながら、全代会新歓のお手伝いもさせて

頂きました。私の学類の方での活動といたしましては、物理学類クラス代表者会議議長を務めさせていただいており、コロナ禍などで機能不全を起こしていたクラス代表者会議の一からの立て直しを行っています。また、OPT（Orientation Project Team）（別称:旧自然科学類合同新歓）にて、旧自然科学類の新歓運営をさせて頂いておりました。はい。趣味は写真を撮ることで筑波大学写真部に在籍しております。また、珈琲・俺にも所属し珈琲を淹れています。人とコミュニケーションをとることが好きで、よく全代会の人とお話ししています。

さて、それでは本題に移らせていただきたいと思います。次第でも書いてありますように、私が全代会構成員としてやっていきたいと思っていること、その上で副議長に立候補した理由について、そして副議長としての在り方について、と3つのお話をさせて頂きたいと思います。

はじめに、私がこれからの全代会活動で行っていききたい事柄についてです。それは、ざっくり一言で言いますと全代会の認知度向上へ向けた取り組みです。まあこのトピックにつきましては例年のように話題に上がり、組織運営には当たり前のようについてくるものだと思いますが、それにしても全代会が内部の人間にも外部の人間にも知られていないのだと一年間で思いました。特に学生に対しては、昨年度先輩方が迅速に行動をおこしていただいた生活教育環境調査で慣れないオンライン授業に悩む学生の声を大学に届け、受け取った大学が意見を反映した対処を考えてくれたように、全代会は学生の声を還元する力があり影響力のある団体です。しかしながら、少なくとも私の学類や友人には全代会の活動も、全代会へ声を届けるプロセスも全く理解していない人がほとんどです。私は全代会は学生の権利と利益を守るため、学生と大学をつなぎ、声を届けることが最も基本的で重要な役割だと認識しておりますが、その基盤となる学生の声が全代会に届けられていない、届きにくい状態になっているのではないかというのが私の見解です。昨年度～現在に至るまで、学生から声をいただく2つの委員会も、それによって調査を行う委員会もやることがないと仰っている委員もいらっしゃいます。単純に学生の声がないだけなら平和で良いという話ですが、認知度の低さから学生が声を上げる過程そのものが麻痺しているのであればことは重大ですし、実際それほど認知度が低いことは特に2年次の方は実感しているのではないのでしょうか。導入が長くなりましたが、では全代会の認知度向上のために何をしたいのかお話しします。

全代会でやっていきたいこと、ざっくり言うとそれは全代会の認知度向上です。全代会を、その存在が少しでも学生の頭の片隅にあり、利用される組織にしたいと考えています。そのために、三つの具体策を考えています。

一つ目は、学生に対し常に開かれた窓口を設置することです。現状で常に開かれてかつ多くの学生が気軽に利用可能な窓口はありません。生活・教育環境調査がその役割を担ってはいますが、各クラスLINEに埋もれているのが現状です。また、何か困ったことがあったときに学生がどこに連絡すればいいかわからない状況に陥っていると思っています。そこで、逆にそこを利用して、その第一の窓口になれば全代会の認知度向上に繋がると考えました。

Twitter や HP に載せられ、学生が気軽に問い合わせができるフォームを設置することで、学生の声も増え、対応を繰り返していくうちに全大会の名前も知れ渡るようになるのではと考えております。ただし、Twitter の炎上やフォームに学外からの虚偽報告やなりすましといったセキュリティの問題があります。現在生活環境委員会委員長と話を進め、セキュリティの問題に試行錯誤しながら常設フォームの設置に向けて動いている最中であります。

2つ目に、全大会内部での情報共有です。私は外部の認知度をあげるためにはその組織の構成員が組織のことを理解しなければ達成しないと考えています。昨年委員会で業務をしていて、自分の委員会以外の情報が流れてこないと感じました。委員長というものは各委員会に情報を持ち帰り、共有する存在であり、委員長レベルで情報を止めている現状は相応しくないと考えています。また、委員会が能率を図るために設置されているが、委員会の範囲のみだけで行動をしていては、計画を達成するのに困難が生じる可能性や、曖昧になり議論されないまま流れてしまう可能性もあるかと思えます。つまり、自身の組織を説明できない上に、全大会の認知度を上げるような施策を投じて情報共有ができていない故に達成されない状況であるのです。限界はあるが、全大会の内部情報をしっかり共有することで全大会に興味をもち、意見を出していただける人が増え、全大会としても方針が多様化すると同時に、全大会が一体となって動くことで、ひとつひとつの活動が達成へと近づきやすくなるのではないかと考えます。

3つ目にクラ代会と全大会、クラ代会同士の関係を深める。

具体的には、クラス代表者会議議長懇談会を行いたいと考えています。クラ代同士の情報交換の場とすることで、他学類がどんなことをしているのか把握し、自学類の運営に持ち帰ることを想定しています。新設された総合学域群ではまだまだクラ代の制度が整っていないが、懇談会を通して情報を獲得し、総合学域群クラ代を作っていく手掛かりになると思えます。また、クラス代表者会議が自学類の学生の声を抽出する場所との認識を持ってもらうことで、本来のクラ代の機能を向上させ、クラ代会が動いていない学類に対しては、動き出すきっかけになればと思っております。

これまで私が全大会でやりたいことを話してきましたが、まとめると全大会周知を全大会全体の問題としてとらえ、具体的に以上のような考えを持っていて実行したいということです。

さて、ではなぜ副議長に、議長団に立候補したのかという理由です。中には全大会の周知は広報であり、広報委員長の立場だけでやればよいと考える人もいないでしょうか。

大きく分けると2つの理由があります。一つ目は、全大会全体に関わる施策を実行しようとする、一委員会だけでは限界があると感じたからです。例えば、全大会の周知度の向上は一見広報の役割に見えるが、それには生還・教環・調査の行うアンケートや調査や議事をまとめる総務と言ったように各委員会のお力添えがなければ達成できません。また、全大会を委員会を俯瞰する立場に立つことで、今私が説明したやりたいことをはじめ、全大会とし

てやらなければならないことに対して多角的なアイデアが生まれやすいと考えました。加えて、先生や職員の方とも直接的なつながりのある立場でもあります。そういった観点から副議長となることは、全代会全体として活動を起こしたい私にとっては理想の立場と言えます。

2つ目は、活動的な委員長や構成員が多く、彼らのやりたいことを抽出し、その問題に合わせて委員会同士や先生・職員をつなげることで、実現への手伝いをしたいと思ったからです。具体的には生環が常設フォームに働きかけてくれたり、教環の委員長が全代会の国際化に働きかけてくれたりといったところです。先ほどもいったように委員会だけで完結できる問題だけではない。全代会の活動に深く興味を持ち、色々な委員会の方とお話をさせて頂いている自分自身を活かして、考えをもつ構成員同士をつなげることで、より深い議論が生まれると考えています。

最後に、私の副議長としての在り方についてお話します。先ほども言いましたが、私の副議長としての立場は「全代会内部をつなげること」だと思っています。色々な方と話し、意見や考え・状況を抽出します。そして、人と人を繋げていきたいと思っています。議論を深めるには議論をする相手が必要であり、その人独自の創造があります。全代会を同僚性のある組織へとかじ取りをすることで、最大限構成員の考えを反映し達成させる手伝いをしたいと思います。そして、もちろん構成員と繋がる中で、構成員同士繋げる中で得た情報に関しては、ハウレンソウを基本とし、議長団・委員長陣を通して構成員全体に伝える役目をとりたいと思っています。

以上で演説を終わりたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

#### ◆蒐場（知識）

皆さんこんにちは。まず、私蒐場の自己紹介をさせていただきます。ぬたば ひろと、と読みます。知識情報・図書館学類 2 年次で全代会には 1 年次 2 年次座長団として参加させて頂いておられます。また、知識情報・図書館学類のクラス代表者会議においても、毎週の定例 MT の開催や、春日エリアでの新歓の開催等、様々な活動を行わせていただきました。また、全代会では広報委員会の編集部に所属しており、全代会広報誌『Campus』の取材・記事の執筆を担当したほか、全代会の代表として、大学広報誌『紫峰の風』の学生会議に出席いたしました。委員会活動のほかにも、今年度の全代会新歓にも関わり、資料作成などの点で、微力ながら活動を行いました。

さてここで、副議長として想定している私の立ち位置について説明いたします。主に補佐ですが、具体的には議長と密に連絡を取り合い、お互いの活動を相互に精査する立場を取ります。実際に活動してみなければわからない部分もありますが、スピーディーな活動と隙を突くマネジメントを目標とし、相互補完的な役割をもって活動していくことを想定しております。

そして、私が副議長に立候補した理由について話をさせていただきます。主に以下の 3 点

です。1つ目が、活動内容の効率化を目指すためです。全代会は組織的に不完全な一面があり、一個人に活動の負担が偏ることがあります。現状、委員長のみで作業を行っており、一般構成員が活動内容について来られていない状況にあると考えています。手始めとして今年度は、各委員会への連絡をこまめに行うとともに、作業の平等な分配をめざして、各委員会の内部での連絡系統の把握を目標に活動を行っていく予定です。

2つ目に、活動内容を安定させるためです。昨年度の偉大なる先輩方により、コロナ禍でも、オンラインという形態で活動はある程度継続されてきました。しかし、今年度は総合学域、そして引き続きのコロナ対策の影響で、活動の継続が不安定な部分が多くあります。その活動内容をさらに強固なものにするために、今年はより一層活動内容の確立に取り組みたいと思います。昨年度の活動を「存続」と例えるならば、今年度は「安定」と表現できるような活動を目指したいと考えております。

ここで、私が目標に掲げた、「活動の安定化」のために、各学類の代表がいるこの場で、一つ具体的な話をさせていただきます。それは、来年度以降のクラス代表者会議の存続についてです。以下、クラ代とさせていただきます。現在ここにおられる座長団の方はクラ代に参加されていると思います。全代会座長団の選出はクラ代に一任されており、その点で、クラ代の存続＝全代会の存続といっても差し支えないと考えています。従来、クラ代では、1年次に選出を行い、その1年生が持ち上がりで2年次も活動を行うという形式でクラ代が成り立っていました。しかし、来年度以降は総合学域群の生徒が2年次に上がるため、従来の制度では、引継ぎ等がうまくいかず、クラ代が崩壊してしまうと考えています。私が所属している知識情報・図書館学類について話をさせていただきます。1年次の人数が半分になった影響で、クラ代、そして座長団の選出にも影響が出ます。これらの問題に対してご理解と危機感をもっていただくために、皆さん座長団の方々には今年度一年間を通して、意見共有の場や、総合学域群生の扱いに関する各クラ代の対応の画一化を行っていきます。この活動を行っていく中で、大学の先生方と意見交換をしやすく、議長と違ってある程度自由度が高く活動ができるという点で副議長が適任だと考えました。

ここまで話がずれてしまいましたが、立候補の3つ目の理由について話題を戻します。最後に、私の活動的な大学生活のためです。私は入学して以来、活動的な大学生活を送りたいと考えておりました。高校時代は、勉学と部活に三年間を捧げ、大学では、勉学はもちろんのこと、部活に代わる情熱の矛先を探していました。そこで見つけたのが、全代会という組織であり、学生の意見を全学的に大学に共有するという大規模な活動内容に惹かれました。その組織の中でなら、有意義な活動を送ることができると考え、座長団として参加しております。実際に今年一年間、構成員として活動を行っていく中で、自分自身の成長を実感する機会が多くありました。そのため、更なる成長を目指して副議長として活動したいと考えています。

以上です。ありがとうございました。

◇伊藤（議長）

立候補演説をした佐藤、菟場への質疑応答を受け付ける。

◆三好（日日）

各委員長・委員との連絡など、かなり手厚く、細かいところまで副議長が仕事をしようとしているように見える。仕事が増えてしまうので森本議長の掲げる「働き方改革」に対して逆行するようにも思える。各委員に情報を行き渡らせるということなどについて、そうした視点を踏まえた場合、どのような方法で情報共有などを推し進めようと考えているか。

◆佐藤（物理）

委員長・委員会に情報が行き渡っているか、それを「働き方改革」によるスリム化政策の中でどのように確認するかという点で回答する。まず、活動のスリム化についてだが、あくまでこれは必要でない仕事を省略していくものであるので、情報共有を含む先に掲げた3つの指針のような必要な仕事については、実際にやっていく中で無駄なもの、手書きの物を廃してインターネット上でやり取りを簡潔にするなどといった方法で取り組みたいと思う。情報の行き渡りの確認については、委連会で委員長に都度確認をとることで対応する。施策というよりは個人的な行動にはなるが、委員会との連絡の際には委員長からの情報公開がなされているか声掛けをしたいと思います。

◆三好（日日）

各学類に向けた対応の確立化と言っていたことについて、クラ代や座長団の選出方法が学類等によってかなり対応が異なると思う。例えば各学類の先生方が中心になって選んでいる場合や、支援室の方が選んでいる場合もあるし、クラ代や座長団が中心となって行っている場合もある。今はそれが明文化されている資料がない状態で、しかもその活動が私たち20生でなく今年度入った21生の方たちが行っていくということで非常に急ぎの案件になっていると思う。そのような各学類へ向けた対応を確立化するにあたっての資料の明文化はいつ頃までを予定しているか。

◆菟場（知識）

間違っていたら申し訳ないが、資料の明文化という話はしていないはずで、私が考えているのはクラ代同士の意見共有による座長団の選出の共通化という認識で考えている。クラス代表者会議の仕事の一つとして、座長団の選出というものがあると思う。間違っていたら大変申し訳ないが、その仕事の一つとしてクラス代表者会議内での座長団の選出の意見共有の場を設けたいという意味で、対応の確立化という言葉を使ったので、資料の明文化という意味ではない。これで回答になっているか。

◆三好（日日）

回答感謝する。私が申し上げたのは現状、対応が違うので、一度まとめ直した方がよいのではないかと言おうとしたが、私がうまく説明できず申し訳なかった。菟場さんがそのようにクラ代の方にはたらきかけて対応の確立化に向けて活動なされているということで納得した。

## 採決

◇伊藤（議長）

資料 21002 の副議長選挙 4 番に従って、立候補者が 1 名または 2 名であるので佐藤、菟場それぞれに対して信任投票を行う。先ほどの議長選挙の際の投票と同様に信任、不信任、保留で投票してもらいたい。

・佐藤

信任 51 不信任 3 保留 2

信任が座長団の過半数以上であるので、佐藤を令和 3 年度副議長に選出する。

・菟場

信任 51 不信任 3 保留 2

信任が座長団の過半数以上であるので、佐藤を令和 3 年度副議長に選出する。

◇伊藤（議長）

これをもって全大会の令和 3 年度議長団選挙を終了する。本日の本会議終了をもって本年度の議長団のもとで全大会の活動をしていくのでよろしく願います。それにあたって今年度の議長団に新任した三名からコメントをもらう。議長に新任された森本から順番に副議長の佐藤、菟場からも願います。

◆森本（知識）

公約で述べたように円滑に活動できるようなサポートを一年間していきたいと思う。よろしく願います。

◆佐藤（物理）

選出をありがたく思う。私も公約でいったことを必ず実現できるように精いっぱい頑張っていこうと思うので、よろしく願います。

◆菟場（知識）

副議長になったからにはバリバリ仕事を回していくので、協力をお願いする。

## 委員会報告

委員会報告とは全代会の本会議が終わった時に各委員会の活動報告をして、そこで学類のクラス代表者会議などに共有することなどを伝え、各委員会で報告する場である。

### ○全代会議長団

- ・本日の本会議の準備及び、全代会研修会で全代会新歓担当が活動を進めた。

### ○総務委員会 事務部門

- ・先日行われた研修会と、本日の本会議の出席確認のフォームや会議資料の整備を行った。
- ・後ほどこの本会議の議事録を作成する。

### ○総務委員会 情報部門

- ・5/7に全代会のIPアドレスを変更した。不具合などがあれば情報共有をお願いします。

### ○学内行事委員会

- ・学類新歓援助金申請や学園祭実行委員会の実行計画書の赤入れを行っている。
- ・学類新歓援助金申請に関して新歓事業が終了したと連絡を受けたため、事業報告書、決算書が提出され次第赤入れを行う予定である。
- ・学園祭実行委員会から送られる実行計画書について5月下旬から6月上旬に赤入れを行う予定である。

### ○教育環境委員会

- ・先週第1回教育環境委員会ミーティングを行った。今週金曜日にもミーティングを行う。
- ・授業形態に関するアンケートについて話し合う。

### ○生活環境委員会

- ・昨日ミーティングを行った。
- ・教育生活環境調査のリンクを議長団のメールのアカウントから先に回せる学類に回す。
- ・昨年度に学生宿舎で日中にオンラインでいるにもかかわらず暖房がついていないという問題に対して、要望を出すためにアンケートをお願いしようと思う。
- ・今回の本会議でも言ったように新しく Teams でアンケートをやることを考えている。

### ○調査委員会

- ・今週調査委員会第1回ミーティングを行った。
- ・今後実地調査の研修を行う。



○広報委員会

・オンライン『Campus』を作成中である。

**閉会**

以上 総務委員会 林海歩 作成